

互いに思いやり 感謝しあい 尊敬しあう
そのことを自分の心に問うていくことが
大切ではないでしょうか

藤井 誠一郎

同朋新聞

どうぼうしんぶん

Dōbō Shimbun

10

Vol. 791 October 2023

Shinran
500th

〽慶讃テーマ〽
南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう



慶讃特設サイト 検索

発行所
真宗大谷派宗務所
代表者 木越 渉
編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)
購読料 無料
送料 1部1カ年1,300円(部数により変動)
振替口座番号 01000-6-27404
加入者名 東本願寺出版部

今月の写真

昼の月
月や星は昼間も空に存在しているが私たちは気づかない。
「目に見えないところでも丁寧にしっかりと仕事をしている人たちについて発信したい」と
ごみ収集の現場で研究をされている藤井誠一郎さん。
私たちは、普段気づかない多くの人たちに支えられて生きている(2・3面参照)。

CONTENTS

2・3面

人間といういのちの相

ごみ収集の現場から
藤井 誠一郎さん



6・7面

特集

報恩講のはじまり



8面

対談

私にとっての慶讃法要(下)
—法要からの出発

木越 渉 × 宮下 晴輝
宗務総長 教学研究所長



4面

現在を生きる

縁家 —お寺の掲示板—
第3回

5面

親鸞聖人にであう
第15回

9面

聞 今月の法話 第36回

真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう

連載

人間といういのちの相



女性のごみ収集風景

全国の自治体をはじめ、東京でも行政サービスの民間委託が進んでいます。委託先の企業ではスタッフの確保が課題となっており、清掃事業に少くも女性

職業には貴賤がないと言われます。どの職業にも大切な意義があり、プロフェッショナルと呼べる技があります。そして、従事している一人ひとりの思いがあります。この職に就いても、そのことは同じなのではないでしょうか。互いに思いやり、感謝しあい、尊敬しあう。そ

的に行き届いていない。地域の情報も収集しながら業務を遂行している。清掃現場をつぶさに見てこられた藤井誠一郎さん。多くの方との出会い、そして清掃現場から見えてきた私たちの社会と。藤井さんのお話から、人間の相を考えます。

「ごみ収集は男性が担うものという固定観念があったのですが、東京では、女性職員が活躍されているとお聞きしました。」

神奈川県座間市の清掃車(海のぜろうえいすと号)

また、収集する環境は刻々と変わります。一力所から集中的にごみが多く出るともあれば、工事のために通行止めになっている場合もあります。状況が変わっても、限られた時間内に収集を終えなければなりません。まるでパズルゲームのようにルートを変更し、その状況に対応します。自分の持っている情報を駆使して効率よく与えられた仕事をこなしている姿は、まさにプロフェッショナルです。

「ごみ収集は男性が担うものという固定観念があったのですが、東京では、女性職員が活躍されているとお聞きしました。」

「ごみ収集のこれからの課題と未来像についてどのように考えておられますか。」

ごみ収集の現場から

インタビュー ● 藤井誠一郎さん

2020年の新型コロナ緊急事態宣言後、いわゆるエッセンシャルワークのひとつであるごみ収集に従事する方々への関心が高まりました。しかし、私たちはその関心も薄れ、以前の日常に戻りつつあるのではないのでしょうか。私たちが衛生的な生活を送る上で必要不可欠な清掃事業。清掃職員は、ただそこ



1970年生まれ。立教大学コミュニティ福祉学部准教授。地方自治論や行政学の分野のうち、公共サービスの提供、オンブズマン制度、民主的な地域づくりについて研究。近年では、民間企業における経営手法等を積極的に導入することによって、効果的・効率的な行政運営を行うとされているNPM(New Public Management)に疑問をもち、清掃行政を事例として今後のサービスの提供体制のあり方を研究している。「実践から構築する理論」、「人間味のある視座」という研究スタンスを大切に、積極的に現場に出て調査を行っている。

この紙面では、さまざまな人を通して、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思います。

通信員リレーレポート Vol.240

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介しします。



北村拓美さん(左)と不二井住職(西蓮寺にて)

五線譜に込めた想い

能登教区 穴水組 西蓮寺門徒

北村拓美さん(71歳)

大相撲の人氣力士、遠藤関の出身地として知られる石川県穴水町中居。能登・内浦の穏やかな入り江を見下ろす高台に西蓮寺は建つ。そして、本堂の両余間を飾る8枚の襖絵は、完成から6年を経た今も、参拝者の目を引き付ける。

現在を生きる

なことに気がついた。そこには襖ではなく、黒っぽい茶色の板戸があり、白い襖に替えたら余間も明るくなるだろうと感じた。しばらくして、自分もせつかく絵を描いているのだから、浄土を題材にした絵を描いて納めたいと思い立ち、不二井住職に相談した結果、襖絵を描くことになった。

数年かけて構想を練り、蓮の花と飛天をモチーフにした日本画を描き、2年の制作期間を駆け順々にお寺に納めた。その襖絵の一つには、五線譜が描かれている。これは宗保さんが実際に作曲した作品の楽譜。「二男は音楽が好きで、子どもの時から習っていた。ピアノでよく曲を作っていました。生きた証として作品を入れさせていただきました」と語る。

「制作は、私一人の力ではなく、何かに後押しされて成し遂げることができたと思います。それは、亡くなった息子さんか、ご先祖さまなのか、それらを越える何かなのかはわかりませんが、今は大切なお寺に絵を納めることができ、感謝の気持ちでいっぱいです」と話す北村さん。私には、確かに仏さまに出遇った人の言葉のように感じられた。



8枚の襖絵を「緑風」、宗保さんが作曲した譜面を「生」と名づけた

能登教区通信員

経塚 幸夫

縁 お寺の掲示板

第3回

お寺の掲示板に込められたさまざまなお祈りを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



浄證寺 (四国教区 西讃組)
香川県善通寺市生野町2464
住職代務者 三好 一存

年老いて
終活断捨離
墓じまい
仏壇を閉め
何処へ行く

世間では、終活や断捨離が盛んに勧められ、お墓や仏壇を閉める方も多くなっています。そして、仏事全体が簡略化され、顕著に進む宗教離れ。しかし、すべて手放し、最期は皆さんどどこへ行くのでしょうか。本当に大切なものは何かを考えてもらうきっかけになればと思います。仏教の専門用語ではないやさしい言葉でリズムよく表現しました。

浄證寺には、「聖清苑」と名付けられた京都の庭園を感じさせる庭がある。近隣の方の散歩コースとなっているこの場所に、「ずっと、掲示板がほしかった」と語る住職代務者の三好一存さんは、昨年の4月頃、念願の掲示板を設置した。

に掲示されている。



「地元の方はもちろん、外国の方にも見ていただいております。さまざまな方とのコミュニケーションのきっかけになっていきます」と話す一存さん。

お寺という場が「我が身に出あわせていただく場」となることを願っている一存さんにとって、掲示板はその一助であり、「掲示板の言葉に目を向け、少しでも感じていただけることがあると嬉しい」と話された。

掲示板の言葉は、一存さん自ら毎月考え、坊主さんが書き上げるとい共同作業。さらに、ご門徒の方が毎月持って来られる手描きの水墨画とともに

日々忙しく移り変わる世の中で、ふと立ち止まり、言葉を通じて我が身に出あうことの大切さをあらためて感じた。

四国教区通信員

河野 一道

相続・信託のご相談は北陸銀行へ。



なにかから備えたらいいかわからない。

遺言書はホントに必要な？

相続で面倒をかけたくない。

いまのうちに子や孫に財産を譲りたい。

どのくらい相続税がかかる？

家族のライフストーリー、こんなお悩み解決しませんか？

●ご相談内容によっては必要に応じて専門家を紹介する場合がございます。●信託商品をご利用いただく際に手数料が必要となります。●詳しくは北陸銀行の窓口・ホームページでご確認ください。

www.hokugin.co.jp

あなたのライフストーリーを考える。北陸銀行

真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう



「顕」 —顕かにして開く—

関東に移り住んで10年ほど経つと、親鸞聖人の元には多種多様な人々が多く集うようになり、聖人は訪ね来る人たちが抱える問いや悩みを傾け、自分自身が法然上人との出会いをおして出あい得た本願念仏の教えを、その人の人となりや悩みのたねにあわせて、丁寧に応えておられたことだろう。

1224(元仁元)年、法然上人の教えを確かめる書である『顕浄土真実教行証文類』(教行信証)の草稿が出来上がったと伝えられます。といつも現存する『教行信証』には、長年大事に手元に置いては、何度も何度も自身で加筆修正された跡があり、それはお亡くなりになる90歳近くまで続けられたようです。生涯をとおして教えに学び、自己を問い続けておられたお姿が伝わってきます。

では『教行信証』は何のため誰のために書かれたのでしょうか。考えられるのは、法然上人の教えを正しく理解できず非難するだけの浄土門以外の人たちに向けて書かれたということ。また、法然門下でありながら、上人の教えをきちんと受けとめることができずお仲間に対して、悲しみを感ずながら書かれたということ。

聖人はすべての人に対して、真実の教えにどうかきちんと出あつてほしい、本当の自分に気づいてほしいと願いながら『教行信証』を執筆されたことでしょう。

親鸞聖人に であう

浄土真宗をあきらかにされた親鸞聖人。大谷中・高等学校「京都」で生徒とともに学ばれている乾さんと、中高生の素直(リアル)な問いを手がかりに、「人と生まれたことの意味」を親鸞聖人のご生涯に学んでいきます。



乾 文雄
京都教区近江第5組
正念寺住職
大谷中学・高等学校講師

「昔、平野先生のお話をテープ起こしてたら、親鸞さんの話を聞いた人々は帰り道に『おい、これで生きていける』と喜んでたよ。最近その言葉が響くようになってきた自分がいる」「テープ起こして何ですか?」「疑問はそこ? 音声を文字化するバイト。1文字1円。それはおいといて」「みんなはまだ10代やけど、何かきつかけで生きる気力や自信を奪われて、空しいとか人に会うの嫌やとなったりしたことない?」「...」

「無言は肯定と受け取っておこう。あと、認められたい欲求、いわゆる承認欲求ってないかな? それでそれが叶えられずに凹むこととかどう?」「認められたいけど認められずに苦しんで人間関係をこじらせている人に聞いてほしい! 親鸞さんに教えられたことやけど、大事なはずなのにいる人とダメな自分を認めること! 自分の至らなさと他人の尊さを認めずに認められたいと思っても、それはもう無理! でも認めることができない私がいる! 話を戻そう!」

「親鸞さんの話を聞きに来た人たちは、私が私として生きることに疑問や不安、時には絶望を感じてたんですよ。そして話を聞いて『これで生きていける』という確かな手応えを感じて帰路についた」「それなら私も聞きたいかも...」「そやろ、なんかうれいその反応! で、いったいどんなことを言っていたのか?」「まずは自分を、縁を整えればこんなことでもしてしまっ存在だと受けとめたということ。夏目漱石の『こころ』に『平生はみんな善人なんです。少なくともみんな普通の人間なんです。それが、いざという間に、急に悪人になるんだから恐ろしいんです』という文があるけど、通じ合うものがあるよね」「わかるわー!」

「仏教の基本は善を行い悪を為さず心を清め落ち着かせるというもの。それは正しい教え。でも、親鸞さんの元を訪ねてきた人の多くは、そういう人で在りたいけど、いくら心がけて努力してもそうはなれず苦しんでたんとちがうかな。それに対して、救われたければ善人になりなさい、あなたの中にある煩惱を追い出ささいと言われたらどう思う?」「そらそうやけどどう感じ?」「どうよな! しかも悲しいことに私らがなれるのは正義に立って自分の都合を押し付ける善人もどきでしかない。また、恥ずかしいことにダメな自分を追いやることなどできず、ひた隠しにしては善人のふりをして本性をまかせてしまっ。うっつく痛々しいよな」「そんな時に『あなたはあなたのままでもええやないですか。いい人を演じていたい誰を生きようとしているのですか。どうしようもないあなただとしても、そこに立って生きるしかないでしょう。でもそこに立つのは自分の力では無理なんです。そこに立たせてもらえるのが念仏の教えなんです』などと言った人が現れた!」「そして『言ったのは私ではない、法然さんです』と、どこまでも私(=エゴ)なしに「私(=セルフ)」を伝えようとする親鸞さんに、みんな心を動かされたんですよ!」「そんな人たちにいっぱい質問受けてる内に、これはきつちりと法然さんの教えの本当のところが顕かにせなあかんと思つて『教行信証』を書かれたんと違つかない?」「和桐という先生がある席で、真宗のお坊さんの余りにも羽目を外した姿を見たある方から『これでもいいのですか?』と尋ねられた。みんなは聞いてどう思っ?」「言い訳もせず、ごまかしもせず、正当化もせず、聞き直りもせず、あきらめもせず。」

「この和桐先生の言葉は、教えに出あうことで、煩惱を具足する。私」に対する悲しみ、痛み、恥ずかしさを全部受けとめられた者の責務を胸に、『教行信証』執筆に向き合う親鸞聖人の心の内を表しているように思うのです。『教行信証』には、人生において必ず起こるであろう喜びと清々(すがすが)さが開かれています。感じます。」

報恩講のはじまり

教学研究部

真宗門徒にとって「報恩講」は、最も大切な御仏事です。真宗本願寺(東本願寺)では毎年、宗祖親鸞聖人の祥月命日である十一月二十八日(東本願寺)を結び、毎年二十一日から二十八日までの八日間、御正忌報恩講が勤まります。目前に控え、「報恩講」の歴史とその意義を確かめます。

報恩講のルーツ

宗祖親鸞聖人は二二六(弘長二)年十一月二十八日に九十歳の生涯を閉じられました。家族や門弟、そして教えを受けた在俗の人々は、聖人の在世時を思い出し、涙を流して悲しみました。聖人の遺骨は当初、鳥部野の北、大谷の地に墓所を設けて収められましたが、十年後の二七二(文永九)年冬の頃、その場所より西にあたる吉水の北に移されます。



「廟堂創立」[[親鸞伝絵]弘願本] / 東本願寺蔵

の移転と廟堂建立に、門弟たちとともに尽力したのが、聖人の末娘である覚信尼(二二四〜八三)です。そして親鸞聖人が明らかにされた念仏の教えを大切にする人々は、報恩講のため、毎年この廟堂へ参詣したのです。親鸞聖人の曾孫で本願寺第三代の覚如上人(二七〇〜三五五)は、三〇(延慶三)年、この廟堂の留守職に就任し、やがて「本願寺」と称して寺院化した大谷本願寺。また、それに先立つ二九四(永仁二)年には、親鸞聖人の三十三回忌にあたり「報恩講式」を撰述しています。毎月二十八日に二座の法要が勤まる際、「報恩講式」三段が拝読されたということ

です。さらに翌年六月中旬には、聖人の伝記が「親鸞伝絵」(初稿本二巻として撰述されました。このように、親鸞聖人の滅後間もない頃から、家族や門弟らによって年忌法要が勤められるようになりました。しかし当時はまだ報恩講という法要の名称が定まっていた訳ではありませんでした。

法要としての成立

御命日の集いが「報恩講」という名称で、本願寺教団の最も大切な法要と位置づけられたのは、本願寺第八代蓮如上人(二四二〜九九)の時代です。それまで真宗の教えは、門弟の師資相承(法脈)を軸に形成された「門流」という集団でもって各地に伝えられていました。そうした中で、本願寺を中心とする教団をつくりあげたのが蓮如上人でした。蓮如上人が各地の門徒に送った消息をまとめた「御文」によって、わかりやすく表現された真宗の教えが、数多くの人々に伝えられました。そして、教団が組織化されていく過程において、親鸞聖人の年忌法要が教団の中心的な法要となっていくのでした。

ところが、京都にあった大谷本願寺は二四六(寛正六)年、比叡山衆徒によって破却されてしまいました。そのため蓮如上人は、近江国(現滋賀県)の各地を転々とすることになりました。そして二四七(文明三)年七月二十七日、越前国吉崎(現福井県あわら市)に坊舎を構えます。「報恩講」という言葉が初めて登場する「御文」は、この吉崎時代に書かれたものです。その「御文」のなかで蓮如上人は、他力の大信心を決定したうえで、「仏恩報尽」「師徳報謝」することを、「報恩講」の意義としていいます(二四七(文明五)年十一月二十一日付「御文」(帖外))。吉崎を退去した後、蓮如上人は山城国山科(現京都市山科区)で本願寺を再興していきます。四八〇(文明十二)年十一月二十一日、山科本願寺での「報恩講」の初日に著された「御文」(帖外)では、山科本願寺

お斎の伝統

本願寺の報恩講は、早い時期から僧侶だけではなく、門徒が主体的に参加することによって成り立っていました。門徒が参加する行事として、特に重要な伝統がお斎です。お斎とは仏事における食事を指し、戦国期の本願寺では、各地から上山した僧侶・門徒が「頭人」「頭役」として、準備を担当しました。この役を勤めることで、さらには儀式に関わる人々が同座して食事をする中で、本願寺教団の結束力は強固になったと言われています。

現在、真宗本願寺(東本願寺)で参詣者に提供されるお斎の食材は、全国各地から届けられ、参詣者への接待は、保信会(真宗本願寺)に入ります。真宗本願寺が中心となって担っています。また全国各地の寺院には、地域色豊かなお斎文化が継承されています。



お斎の様子(2019年報恩講)

西暦	元号	滅後	事項
1961	昭和三十六	700	宗祖聖人七百回御遠忌法要で、初めて音楽法要が勤められる。
1923	大正十二	662	4月、立教開宗七百年記念法要が厳修。初めて御影前の「同朋唱和」が勤められる。
1895	明治二八	634	幕末の動乱で焼失していた東本願寺の両堂が再建される。
1603	慶長八	342	親鸞聖人の御真影を東本願寺に迎える。
1602	慶長七	341	教如上人、徳川家康から烏丸六条の地を寄進される。(東西分派)
1561	永祿四	300	大坂本願寺で親鸞聖人三百回忌が厳修される。(本願寺における初の御遠忌)
1480	文明十二	219	蓮如上人、京都山科に本願寺を再興。「御文」(十一月二日付、帖外)に、報恩講の意義が説かれる。
1473	文明五	212	本願寺第八代の蓮如上人の「御文」(十一月二日付、帖外)に、「報恩講」という言葉が初めて登場する。
1465	寛正六	204	京都 大谷本願寺、比叡山衆徒により破却される。
1359	延文四	98	覚如上人の長男・存覚、親鸞聖人の遺徳を讃える「歎徳文」を著す。
1295	永仁三	34	6月中旬、覚如上人、聖人の伝記「親鸞伝絵」を撰述。
1294	永仁二	33	親鸞聖人の曾孫・覚如上人が、聖人三十三回忌にあたり「報恩講式」を撰述。
1272	文永九	11	冬の頃、大谷の墳墓をあらため、吉水の北の地に遺骨を移す。そこに廟堂を建立し、聖人の御影を安置する。
1262	弘長二	1	11月28日、親鸞聖人、京都の善法坊で入滅。その遺骨は京都東西の麓、鳥部野の北、大谷の地の墓所に収められる。

「御絵伝」と「御伝抄」



御伝抄拝読(2018年報恩講)

報恩講で欠かせないのが、「御絵伝」を掲げて「御伝抄」を拝読することです。覚如上人の撰述した「親鸞伝絵」は、絵と詞書(説明文)が交互にある絵巻です。大勢の人が一度に見るのは難しく、詞書を読みながら絵を眺めることもできません。そのため次第に、絵だけを掛軸の「御絵伝」として掲げ、詞書だけが「御伝抄」としてまとめられることとなりました。これによって、多くの人々が一緒に、「御絵伝」を拝見しながら「御伝抄」の拝読を聴聞し、親鸞聖人の生涯を味わうことができるようになりました。

新たな法要のかたち

近代に入ると、時代社会の変容にもない、報恩講の勤め方にも変化が生じてきました。なかでも本山での儀式において、僧侶だけでなく、参詣している門徒(同朋)も一緒に「正信偈」を唱和する「同朋唱和」が始まっていきます。その起点となったのは一九二二(大正十一)年四月、東本願寺で厳修された「立教開宗七百年記念法要」でした。また東本願寺では、一九六一(昭和三十六)年の宗祖七百回御遠忌法要で初めて、仏教音楽を取り入れた音楽

法要(四月二十二日)が行われ、翌年四月一日に営まれた「宗祖聖人御生誕慶讃法会」以降、親鸞聖人の誕生を祝う法要が音楽法要として勤められることとなりました。そして二〇二二(平成三十三)年には、「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」を機に作曲された新しい曲で、同年十一月十九日から二十日、御正当報恩講に先駆けて、御遠忌讃仰の音楽法要が厳修されました。それ以降、報恩講の初日である十一月二十一日の午前、音楽法要が勤められています。



音楽法要(2019年報恩講)

原点としての報恩講

以上たずねてきたように、報恩講の淵源は、宗祖親鸞聖人の滅後、遺された家族や門弟が、廟堂を建立して聖人の御影を安置し、報謝の集いをはじめたことに由来します。そして当初は宗祖の御真影の安置される場所(本願寺)で勤められていたのが、教団が整備されていくにしたがい、次第に全国各地の道場・寺院、さらには門徒の家庭内でも営まれるようになりました。

その歴史的事実からすれば、報恩講こそが、真宗教団の歴史、真宗門徒の原点であると受けとめることができるでしょう。近年、時代状況の変化や担い手の高齢化、さらには新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により、法要の規模が縮小されたり、お斎が中止になったりするなど、その伝統に揺らぎが生じてつあります。だからこそ今、歴史を顧みつつ自らの足もとを見つめ直し、「報恩講」の御仏事を勤める、という真宗門徒の原点に立ち返っていかねばならないのではないのでしょうか。

対談

私にとっての慶讃法要(下)

—法要からの出発



木越 渉 宗務総長

宮下 晴輝 教学研究部長

先月号から、今春、真宗本廟で勤まった慶讃法要の意義を確かめ、今後、各教区で慶讃法要が勤まることを願い、木越渉宗務総長と宮下晴輝教学研究部長との対談「私にとっての慶讃法要」を掲載しています。前半(上)では「真宗門徒であることの原点」について対談がなされました。後半(下)の今号では「法要からの出発」をテーマに語り合います。

感動を問い直す

木越 ある知人の住職から聞いたことですが、このたびの慶讃法要で初めて真宗本廟に参拝されたご門徒が、帰りに「満堂の門徒と一緒に勤めし、堂内に響いた「正信偈」に、身が震えた」と言われたそうです。

宮下 御堂にたくさんの方が集まって、一同にお勤めをし、ともに念仏しました。その感動を、お参りをした皆で共有されたかと思えます。けれども、その感動は一体何だったのか。そのことをあらためて問い直す機会が生まれてこなければならぬと思います。

木越 慶讃法要というのは、決して打ち上げ花火ではない。教区でのお待ち受け法要に始まり、本山で勤めて終わりというわけではなく、いでしょう。今までおこなってきた教化活動をより深めていくための再出発の機会とならなければなりません。また、真宗本廟に参られた



人の子どもや引率者たちが真宗本廟に集われました。満堂の御影堂で子どもたちが念仏を称えられた時、念仏には歴史があるのだと感激しました。

宮下 総長は閉会の挨拶の中で「念仏しましょう。最初は心の中で。次は自分の耳に聞こえるように。最後は親鸞聖人に届く声で」とおっしゃっていましたね。

木越 子どもたちに「念仏しましょう」と呼びかけ、小さな口から「南無阿弥陀仏」という声が聞かれた時、念仏が私の身体を突き抜けて伝わっている、私の存在は自分が思っている以上に重要なものかもしれないと感じました。

宮下 それは菩薩、求道者を拝まれたということでしょう。とても大事な出来事だと思います。

木越 大谷大学の学生時代、松原祐善先生が帰っていかれる時に私たちが挨拶をすると、ゆつくりと頭を下げられたことが思い出されます。こちらがパツと頭を上げたら、先生はまだ下ろす最中なので、もう一回頭を下げて上げるのですが、先生はまだ頭を下げておられるのです。そのことを寺川俊昭先生にお話ししたら、「未来の諸仏と仰がれているのです」と即答されました。

宮下 このたびの「子どもをつどい」で起こったことも、まさに子どもたちを未来の諸仏と仰がれたということなのでしょうね。本願から諸仏が生まれるということを感じたのだと思います。

木越 ところで、宮下所長が真宗の教えに出遇われた最初の御縁は金沢の崇信学舎であるとかがいました。それはどのような出遇いだったのでしょうか。

宮下 親鸞聖人が法然上人をおして教えられたように、私は出雲路暢良という先生をおして真宗の世界に触れました。その出遇いがなければ、お寺も風景に過ぎないということになっていたかもしれません。親鸞聖人が「教行信証」の総序で「遇いがたくして今遇うことを得たり」と言われる通りです。

木越 私は寺川先生や平野修先生をはじめ、出遇わせていただいた先生方の本を読むと、その先生の声が聞こえてきます。

宮下 私も先生の書かれたものを読むと、先生の声が響いてきます。そして、その声をおして、宗祖や釈尊の教えに出遇い直していくということがあります。

木越 『歎異抄』第二章では、阿弥陀如来の本願から順に釈尊、善導大師、法然上人と憶念していわれています。そして私たちもまた、憶念されているその人の姿をおして釈尊、さらには弥陀の本願に出遇っていくという事ですね。

宮下 そういうことだと思います。「正信偈」に「憶念弥陀仏本願」とあるように、親鸞聖人は本願を憶念しておられる法然上人を仰いでおられるわけでしょう。親鸞聖人にとって法然上人は、阿弥陀如来の本願から現れた諸仏である。そのような人として仰いでおられます。私自身も先生に出遇った時、「ああ、誠実な先生だ」とか「普通の世間の人とは違うものをもつておられる」とは感じましたが、最初はなかなかわからないのです。どういふことを慶び、どういふものを真実と仰ぐ人なのか、そのことが深く知らされるには、本当に時間がかかります。

遇いがたくして今遇うことを得たり

木越 ところで、宮下所長が真宗の教えに出遇われた最初の御縁は金沢の崇信学舎であるとかがいました。それはどのような出遇いだったのでしょうか。

宮下 親鸞聖人が法然上人をおして教えられたように、私は出雲路暢良という先生をおして真宗の世界に触れました。その出遇いがなければ、お寺も風景に過ぎないということになっていたかもしれません。親鸞聖人が「教行信証」の総序で「遇いがたくして今遇うことを得たり」と言われる通りです。

木越 私は寺川先生や平野修先生をはじめ、出遇わせていただいた先生方の本を読むと、その先生の声が聞こえてきます。

宮下 私も先生の書かれたものを読むと、先生の声が響いてきます。そして、その声をおして、宗祖や釈尊の教えに出遇い直していくということがあります。

木越 『歎異抄』第二章では、阿弥陀如来の本願から順に釈尊、善導大師、法然上人と憶念していわれています。そして私たちもまた、憶念されているその人の姿をおして釈尊、さらには弥陀の本願に出遇っていくという事ですね。

宮下 そういうことだと思います。「正信偈」に「憶念弥陀仏本願」とあるように、親鸞聖人は本願を憶念しておられる法然上人を仰いでおられるわけでしょう。親鸞聖人にとって法然上人は、阿弥陀如来の本願から現れた諸仏である。そのような人として仰いでおられます。私自身も先生に出遇った時、「ああ、誠実な先生だ」とか「普通の世間の人とは違うものをもつておられる」とは感じましたが、最初はなかなかわからないのです。どういふことを慶び、どういふものを真実と仰ぐ人なのか、そのことが深く知らされるには、本当に時間がかかります。

木越 親鸞聖人は、自分の思いに沈み込んで「浄土の真証」を貶めているという末法濁世の悲しみをとおして、ただ念仏の教えを明らかにされました。そして、よくよく案ずれば偏に「このような私」のために起こされた本願でありましたと領かれました。

宮下 末法ということ思い出すのは、以前、大谷大学がプロテスタントのマールブルク大学(ドイツ)と対話をした時のことです。その際「世俗化」という問題がテーマになりました。仏教の方では昔から「世俗」という言葉を使

木越 親鸞聖人は、自分の思いに沈み込んで「浄土の真証」を貶めているという末法濁世の悲しみをとおして、ただ念仏の教えを明らかにしました。そして、よくよく案ずれば偏に「このような私」のために起こされた本願でありましたと領かれました。

聞法生活を聞く

宮下 真宗教団にとって立教開宗の起点となる二二四(元仁元)年は、宗祖が今法であること確かめられた年でした。

木越 親鸞聖人は、自分の思いに沈み込んで「浄土の真証」を貶めているという末法濁世の悲しみをとおして、ただ念仏の教えを明らかにしました。そして、よくよく案ずれば偏に「このような私」のために起こされた本願でありましたと領かれました。

宮下 末法ということ思い出すのは、以前、大谷大学がプロテスタントのマールブルク大学(ドイツ)と対話をした時のことです。その際「世俗化」という問題がテーマになりました。仏教の方では昔から「世俗」という言葉を使



宮下 結願法要の法話で、池田勇諦先生が「親鸞聖人の御誕生、浄土真宗の立教開宗を通して、自分の胸の内に閉じ込めてしまうような聞法を翻し、確かな聞法を一人ひとりが始めなければならぬ」と言われていました。この社会のただ中に聞法生活を開いていくことが、法要からの出発になるのではないのでしょうか。(終)

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

第36回

いのちの輝き ~宿縁のなかで~

東京教区 茨城一組 雲國寺 小林 彩



今月の法話

「仏法は、聴聞にきわまることなり」(蓮如上人御一代記問書)と教えられているように、真宗門徒は昔から仏法聴聞を大切にしてきました。日々の生活の中で、仏さまの教えを聞いていただくことを願いに、毎月一話ずつ掲載します。

私は学生時代、将来就きたい職に就くために懸命に勉学に励んでいました。しかし、いざ就職となると女性というだけで履歴書を見る前に判断されてしまい、社会全体から存在そのものを否定されたように感じ、これから先、どう生きていこうのかかわからず、生きていく意味さえも見失ってしまいました。それからの生活も、幾度となく、「なんで私だけこんな目に遭わなければならぬのか」と、落ち込む日々を送っていました。

そのようなある日の帰宅途中、どこからともなく、お線香の香りが漂ってきました。その瞬間、気づくと涙が頬をつたっていたのです。自分でも一瞬何が起きたのか理解できませんでしたが、涙は止まらずあふれ出てきたと同時に、育ったお寺での生活が思い起こされてきました。幼い頃、眠たい気持ちを抑えてお勤めしたお朝事、お寺で集まりがあると、多くのご門徒さんが来て、小さな私に「大きくなったね」などと笑顔で声をかけてくれた姿、お齋を食べながら思いのたけを語りあっている姿、そして最後には、「また今度」と言って、笑顔で別れていく姿などが、走馬灯

のように思い出されてきたのです。毎日の通り道にあった墓地ですが、その時たまたま、どなたかがお供えされたお線香の香りが、たまたま通りかかった私に、お寺の存在を思い起こさせてくれたのです。

そして私の生まれ育った「お寺」とは、どういう場なのか知りたくなくなり、大谷大学で学ぶことにしました。その学びの中である時、「目の前の人をただの人と思うなよ」(高橋卯平)という法語が目飛び込んできました。この言葉が私には、「他の人もあなたと同じ苦悩を抱えている人間です。あなたの偏見で人を見るのではなく尊重してください。ここに、いのちのある人たちがいますよ」と、私を歎き悲しむ声として響いてきました。深い暗闇の中をさまよっていた私は、相手がいることを見失い、社会さえも分断して自分の世界に閉じこもり、孤独の中で苦しんで生きていたのです。

いつの間にか自分は常に正しいという価値判断に縛られ、いのちに価値づけをしていました。それは同時に相手のいのちにも価値づけをし判断していたということでした。「正信偈」に「大悲無倦常照我」とあります。「阿弥陀仏の大いなる慈悲のお

心は、あきらめることなく常に私を照らしてください」という意味です。自分の色眼鏡で物事を判断していた私が、真実に照らされて自分の姿があらわになった時、自分を縛り付けていた苦しみから解放され、目の前が開かれたような明るい気持ちがあふれてきたのです。すると、今まで苦しみの中で見えていなかった学生時代に私を支えてくれた先生や友人、ご門徒さん、家族などの顔が思い浮かび、たくさんのご縁の中で、今の私がいることに気づかされました。そして、自分にとって良い縁も、都合の悪い縁も善悪を超え、すべてのご縁の中で、賜ったいのちを生きさせていたのだと気づかされた時、私は私のままで生きていけよと思えたのです。

「偶然にも阿弥陀仏の救いにあずかり、信心を賜ったならば、それははるか昔から、多くの人の思いや願いが時代を超え、数知れないご縁が重なって今、この私が南無阿弥陀仏を申す身にならせていただきました」と歓喜のお言葉として述べられています。

この言葉は私にとって、いのちを賜わり生きさせていたいただいている縁の不思議さと、多くのご縁が関わりあってお念仏に出遇えた感動としていただいています。お釈迦様は縁起の道理を説かれ、あらゆるものは関係性の中で支え合って成り立っているということを教えてくださっています。例えば、花が咲く「果」には、種となる「因」があれば、花は咲くと考えてしまいますが、そこには水や光、土などの他からのほたらきとなる「縁」がなければ花は咲かないということなのです。私たちは、今の状態を見て良い悪いを判断してしまいがちですが、さまざま縁によって、今の私があるということなのです。そして私たちは、教えという真実に照らされて自分の色眼鏡で見ていることに気づかされ、それが破られた時、お念仏に救われ、良い縁も悪い縁も宿縁として受けとめられ、わが身のまま、悩みながら生活し続けることができるのでしよう。

「真宗聖典」二四九頁
たまたま行信を獲ば、
遠く宿縁を慶べ

数知れない縁のつながりで今ここにいのちを賜わり、お念仏に出遇えたことを慶び、感謝するとともに、それでもなお自己にとらわれ続けるわが身のあり方を、お念仏を申しながら問い続けていきたいと思えます。

東本願寺キャラクターのLINEスタンプ発売中
LINEアプリからの購入方法
STEP 1 LINEアプリを起動
STEP 2 下の「ホーム」ボタンを押す
STEP 3 上にある検索窓に「東本願寺キャラクター」と入力して検索すると表示されます。
購入ページ LINE STORE
お問い合わせは 真宗教化センター しんらん交流館 TEL:075-371-9208

読者のお便り募集
「同朋新聞」の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。
宛先 Eメール/shuppan@higashihonganji.or.jp
FAX/075-371-9211
〒600-8505
京都市下京区烏丸通七条上る
東本願寺出版「同朋新聞編集係」
住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念 紅地天人之図総手刺繍御打敷謹納
〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前
TEL フリーダイヤル 0120-07-6391
FAX フリーダイヤル 0120-34-2816
https://shibata-houiten.com/
株式会社 柴田法衣店

新僧侶の誕生—真夏の得度式執行

厳しい暑さとなった8月4日と7日、真宗本廟(東本願寺)にて得度式が執り行われた。

得度式とは僧侶となるための儀式で、親鸞聖人が9歳で得度されたことにちなみ、大谷派では満9歳から受式できる。原則月1回だが、夏休みに合わせ多くの子どもたちが受式する8月は2回実施。今年は両日合わせて男女198人が受式した。綺麗に剃髪した姿は、京都の夏の風物詩となっている。

白装束姿の受式者は、御影堂にて大谷暢裕門首から「剃刀の儀」を受け、その後装束をあらため、墨袈裟を着けた姿で仏弟子の名告りである法名を授かった。動行後は阿弥陀堂へ移動し拝礼。そして新型コロナウイルスの影響で中止していた「度牒(真宗大谷派僧侶であることの証書)及び法名伝達式」が視聴覚ホールにて行われた。受式者は、引き締まった表情で僧侶としての一歩を踏み出した。



集合写真にて笑顔を見せる受式者(8月4日)

東大谷万灯会 参拝者を照らすろうそくのともしび

8月14日から16日の3日間、大谷祖廟(京都市東山区)において「東大谷万灯会」が開催された。東大谷万灯会は、酷暑のお盆でも暑さが和らぐ夜間に参拝できるよう、境内に提灯を灯したことに始まる。以来、「亡き方を縁として、親鸞聖人が顕かにされた本願念仏の教えに出会う場」となることを願う法会として毎年開催され、今年で62回を迎えた。

本年は近畿地方を縦断した台風7号の影響により、14日は一部点灯、15日は中止、16日は通常開催となった。最終日の「お盆法要」後には、松井憲一氏(元大谷大学非常勤講師・道光舎舎主)による

法話が行われたほか、若い世代の方が仏教にふれることを願い、紙芝居の上演を行った。また、御廟にお供えされたろうそくを再利用したりサイクルキャンドルの子どもたちへの配布や、加工した竹の中にもろうそくを灯す火文字で慶讃法要テーマを表現した。

点灯した提灯の内、ろうそくを用いる4000灯以上の小提灯は、大谷祖廟を支える「東大谷会」の方々を中心に点灯。期間中は激しい天候の変化に見舞われたものの、最終日は、多くの参拝者が訪れ、亡き方を縁に手を合わせられる姿が見られた。

なお、祖廟では8月1日から5日間「暁天講座」も開催され、毎朝6時30分からの動行に引き続き法話が行われ、本堂の広縁から境内に設けられた椅子席からも耳を傾ける聴聞者も多くおられ、期間中延べ300人が聴聞した。法話は、しんらん交流館のYouTubeチャンネルで一部公開している。



参拝者を照らす提灯(8月16日)

山陽教区「非核非戦法会兼原爆死没者追弔会」

7月6日、広島別院明信院にて「非核非戦法会兼原爆死没者追弔会」が勤修された。広島別院では、原爆投下から70年目の2015年より毎年7月6日に法会が勤められ、「非核非戦」を発信している。

非核非戦法会では、動行に引き続き、木村慎氏(第4組興宗寺)より「であうつながるともにある—子どもたちから示される非核非戦」という講題で法話が行われた。



動行の様子

木村氏は、自身が取り組んできた青少年教化活動の体験を紹介し、「そこで出会った福島の子どもたちの姿が「非核非戦」という言葉から思い起こされる」と述べた。原発事故の影響から福島の子どもたちを守る保養事業を仲間たちと共に行ってきた木村氏は、「原発や放射能の問題を事故以前から学んできていたはずなのに、自分のこととなっていないことが問い返され、子ども

たちとの出会いから「私の問題」として受けとめる在り方を教えていただいた。出会い、つながりから自身の思いを超えて教えられる視座、視点、視野があり、全ての人がともに生きていく同朋社会の在り方が知らされる」と話された。

戦争、核、原発の問題は、私たちの在り方、他ならぬ私自身に問われる。そのことをともに確かめ合っていくことが願われていると強く感じる法会となった。

また、毎年8月6日の「原爆の日」には、平和記念公園の原爆供養塔前で動行が行われている。家族の遺骨に会えなかった大勢のご門徒の方がさまざまな思いでこの場を訪れてきたと聞いた。一人ひとりが背景を持って「非核非戦」の願いと向き合う姿があり、願いを伝えている。

(山陽教区通信員 青山祐一)

非核非戦から問われる

九州教区「非核非戦法要—共に生きよ—」

8月9日、九州教区長崎組長崎教会(長崎市筑後町)にて「非核非戦法要」が勤修された。当日は台風6号が接近しており、参拝予定であった方々には参加を「ご遠慮いただき、全日程をオンライン配信で実施した。また、例年、長崎教会境内地にある「非核非戦」の碑の前で動行が行われるが、屋内を中心とした法要に変更。開会式では、信國眞一九州教務所長の挨拶に引き続き、教会本堂にて読経があつた。講話は、照屋隆司氏(沖繩別院総代)によりZoomを通して沖繩基地問題についてお話しいただいた。照屋氏は沖繩への基地集中、負担を押し付けていることに対しさまざまな資料を交えながら、憲法9条にある「戦争放棄」は沖繩の犠牲なしにはあり得ないことを重ねて語り、「沖繩には戦後の日本の姿が凝縮さ



本堂での動行

れており、戦後の日本の歪んだ在り方を肩代わりさせている」と述べた。また、「仏説無量寿経」に説かれている「国豊民安 兵戈無用」は、国が豊かになり民が安心できることで兵戈を用いる必要がなくなるということではないか」と私たちに問いかけた。

照屋氏は非核非戦法要で沖繩基地問題を話しているのか迷いがあつたと最初に語られていたが、「非核非戦」とは私たち一人ひとりに「共に生きる」人間へと立ち返れと呼びかける言葉でもある。沖繩基地問題とは沖繩だけの問題ではなく、私たち一人ひとりの問題であり、ともに解決していくべき課題であると感じる法要であった。

(九州教区通信員 奥村誓至)

兵戈無用は現実化するのか



オンラインでの講話の様子(長崎教会)



3×3バスケットに見入る参加者

2日は、京都のクラフトビルや軽食など、地元京都の飲食店による出店に加え、ダブルダッチや3×3バスケット、ブレیکنのダイナミックなパフォーマンスや体験会も行われた。境内では、東本願寺の職員による参拝案内も行われ、参加者に東本願寺を知ってもらう機会もなった。

2日間約1万人が来場し、夏の暑さにもかかわらず楽しむ多くの参加者で賑わった。

8月1日から9月2日まで、京都駅周辺の賑わいづくりを目的とした「下京・京都駅前サマーフェスタ」が開催された。

下京・京都駅前サマーフェスタは、下京区、京都駅ビル開発、東西本願寺が実行委員会を組織し毎年夏に開催しており、東本願寺や西本願寺、京都駅前などの各会場でさまざまなイベントが実施された。

東本願寺会場では3月にオープンしたお東さん広場を会場に、9月1日、2日に「おひがしさん門前フェスタ2023」を開催した。

1日は東本願寺自衛消防隊による訓練公開や防火設備(放水銃・ドレンチャー)点検特別公開が行われ、木造建築で世界最大級の御影堂に大量の水が放水される様子に、来場者はおどろきの声をあげ、写真や動画におさめる姿もみられた。引き続き、お東さん広場で、アンビエントミュージックの音楽コンサートやショートフィルムの上映が行われた。



夜の御影堂門下でショートフィルムを鑑賞

「おひがしさん門前フェスタ」開催 お東さん広場賑わう

若者向け法話集 ～50のストーリー～ 青少年センターホームページで公開中

「若い人に教える場をつくろう」
青少年センターでは、若い人に教える場をつくる一助となるよう、慶讃事業として「若者向け法話集」の制作に取り組んできました。現在、作成されたすべての法話を公開しています。ホームページからプリントアウトすることができますので、ご家庭やお寺の同朋の会などの話題にしてみませんか？

法話集はこちらから→

青少年センターでは、若者が集う場づくりを応援しています。詳しくは、下記へお問い合わせください。

青少年センター TEL 075-354-3440
MAIL oyc@higashihonganji.or.jp

ご案内

詳しくは、真宗大谷派(東本願寺)ホームページ「法要・法話のご案内」まで
もしくは、右のQRコードを読みこんでください。



真宗本廟(東本願寺境内) 京都市下京区烏丸通七条上

- ◇ 晨朝(おあさじ)【場所】阿彌陀堂及び御影堂 【時間】毎日7時～
 - ◇ 晨朝法話 【場所】御影堂 【時間】毎日7時30分頃～ 約15分
 - ◇ 真宗本廟法話 【場所】視聴覚ホール・大寝殿・参拝接待所仏間
【時間】通常10時10分～/13時10分～ 約25分
速夜日(12・27日)13時10分～ 約25分 御命日(28日)9時30分～ 約15分
※その他、時間・会場を変更する場合があります。
 - ◇ 参拝接待所ギャラリー 【時間】9時～16時
「親鸞聖人のご生涯」(常設展)開催中、「涉成園展」開催中～10月26日
- 詳しくは、真宗大谷派ホームページまで

しんらん交流館 京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199番地

- 真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、ぜひ真宗教化センター しんらん交流館にお立ち寄りください。
開館時間/平日 9時～18時 土日祝 9時～17時 休館日/毎週火曜日
- ◇ 10月の定例法話【場所】1階 すみれの間
【時間】毎日14時～(12・27日10時～) 勤行後約1時間
※毎週火曜日(10日を除く)は休会、その他都合により休会する場合があります。
 - ◇ 10月の東本願寺日曜講演【場所】2階 大谷ホール 【時間】9時30分～11時
【講師】◆10月1日…吉元信暁(九州大谷短期大学教授)◆8日…休会◆15日…松下俊英(教学研究所研究員)◆22日…岸上仁(大阪教区受念寺・脳神経内科医)◆29日…中野誠二(北海道教区大昭寺住職・北海道教学研究所長)
 - ◇ 交流ギャラリー(1階)【期間】10月4日(水)～12月18日(月)
「梅林秀行さんと歩く 東本願寺 水と緑の散歩道」展
 - ◇ 公開講演会【場所】2階 大谷ホール 【日時】10月18日18時～19時30分
【講師】吉村由依子(亀屋良長女将) 【参加費】550円
 - ◇ しんらん交流館 Tera School【場所】1階 すみれの間
【日時】毎週月・金曜日 18時30分～20時30分
【対象】小学3年生～高校3年生 ※幼児教室もあります。 http://www.teraschool.jp
- 東本願寺いのちとこころの相談室 【TEL】075-371-9280
【開室時間】毎週木曜日 13時～17時(祝日または休館日、その他行事日は閉室)
- 全国のお寺での取り組みや読みもののページなど、さまざまな情報を発信しています。

親鸞聖人讃仰講演会のご案内

- 11月26日から28日の3日間親鸞聖人を讃仰する講演会を開催します。ぜひご来場ください。
- ◆11月26日(日)～28日(火)18時～20時30分(17時開場)
会場:真宗教化センター しんらん交流館2階大谷ホール
 - ◆聴講無料(予約不要)
- 講師・講題
- 26日(日) 「ままならない体を生きる」
伊藤 亜紗氏(東京工業大学教授・未来の人類研究センター長)
「証道」という成仏道一証から証果へー 小川 一乘氏(大谷大学名誉教授)
 - 27日(月) 「門徒という生き方ー親鸞聖人の御生涯に学ぶー」
沙加戸 弘氏(大谷大学名誉教授)
「願心莊嚴の浄土」 本多 弘之氏(親鸞仏教センター所長)
 - 28日(火) 「『教行信証』の三部経」
織田 顕祐氏(同朋大学特別任用教授・大谷大学名誉教授)
「救いと罪一唯、差別するを除くー」 池田勇諦氏(同朋大学名誉教授)
- ※講演の様子をインターネットにて同時配信いたします。
詳しくは『同朋新聞』11月号にてお知らせします。

問い合わせ 教学研究所
〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199
電話:075-371-8750
詳しい情報はホームページにて公開中!

読者のお便り

孫の可愛いお嫁さん
富山県高岡市 中島司(78歳)

孫が今年の4月に結婚しました。22歳の可愛いお嫁さん。関東から富山に引っ越してきて、我が家に挨拶に来てくれました。「家族になるのだから、うちのしきりにならなくてもいいよ」と、お内仏の前には案内し、一緒に手を合わせました。そして「私、生まれて初めてお仏壇にお参りしました」とのこと。今はお内仏のないお家も多いと思います。時代を感じました。

また、うちでは毎年親戚で集まり、お手次のお寺にお墓参りに行くのですが、今年はお嫁さんも一緒に参ってくれたかと誘いと、「はい!」と気持ちよく答えてくれました。

この歳になってこんなに楽しいこと、うれしいことあるとは思ってもみませんでした。合掌。

お便り募集

月刊『同朋』購入限定プレゼントキャンペーン

期間 開催中～10月31日(火)

単号購入の方 ⇒ クリアファイル

月刊『同朋』で表紙絵をご担当の北村人さん(絵本作家&イラストレーター)の書き下ろしイラストグッズをご用意しました!

それぞれプレゼント!

新規年間購読をお申し込みの方 ⇒ トートバッグ

月刊『同朋』A4判・60頁・オールカラー
年間購読4,200円(税込・送料込)
1冊400円(税込・送料別)

10月号の特集 恐怖ー私たちがおそれるのは?

ご注文・お問い合わせは TEL:075-371-9189

東本願寺御用達 日下念珠店

〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075)351-6325
フリ-FAX 0120-89-5255
定休日:日曜日

入館状況については、研修部まで
お電話でお問い合わせください。

2023年 真宗本廟奉仕のご案内

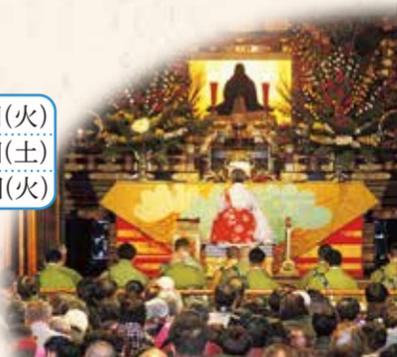
真宗本廟奉仕を機に、
ぜひ「帰敬式」を受式ください。

◆真宗本廟報恩講奉仕団

2泊 11月20日(月)~22日(水)	1泊 11月20日(月)~21日(火)
11月24日(金)~26日(日)	11月24日(金)~25日(土)
11月27日(月)~29日(水)	11月27日(月)~28日(火)

真宗本廟報恩講の法要参拝を日程の中心とした奉仕団です。

申込締切 10月10日(火)



◆真宗本廟お煤払い奉仕団

2泊 12月19日(火)~21日(木)
1泊 12月19日(火)~20日(水)

歳末、両堂の1年分の埃を竹の棒と大きな団扇を使って外へ扇ぎだし、新しい年をお迎えする準備を行う「お煤払い」に参加する奉仕団です。

申込締切 11月9日(木)



参加費 (2泊3日) 18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円
(1泊2日) 13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円
※上記は大人(15歳以上)の場合です。

【お問い合わせ】同朋会館・研修部 TEL:075-371-9185

通年を通し、一般の奉仕団(寺院・門徒会等)の募集も受け付けています。詳しくは同朋会館HPをご確認ください。

・ご入館される皆様に安心してお過ごしいただけるよう、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し運営しています。
・具体的な対策については、同朋会館ホームページよりご確認ください。



真宗本廟奉仕
参加者の声を
ご紹介!

あらためて人と会い、
他者から自身を教えてもらえる
場であることを強く感じました。
(50代 男性)

今月号の『同朋新聞』を読んで、

プレゼント付 クロスワードパズルを完成させよう!

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、
クロスワードパズルを完成させましょう!
10月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

タテのカギ

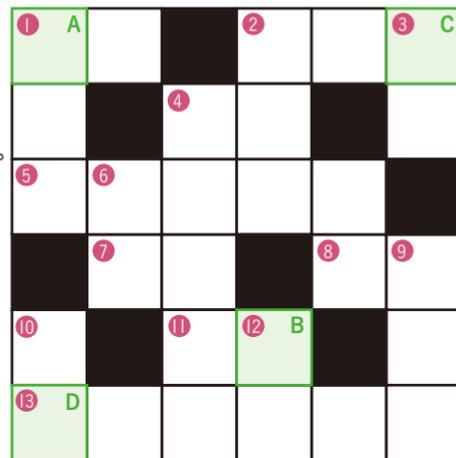
- 『親鸞聖人にであう』今月のタイトルは、「顕-〇〇〇かにして開く-」です。(5面)
- 『縁-お寺の掲示〇〇-』今月は、四国教区の浄證寺さんの掲示板を紹介しします。(4面)
- 『人間というのちの相』藤井誠一郎さんは、「立教大が〇〇〇〇〇〇福祉学部」の准教授です。(2・3面)
- 11月26日から28日の3日間、親鸞聖人を「さ〇〇う」する講演会を開催します。(11面)
- 『特集』真宗本廟では毎年、宗祖親鸞聖人の祥月命日である11月28日までの8日間、「〇〇〇う忌報恩講」が動きます。
- 月刊『同朋』購入限定「〇〇セントキャンペーン」を実施しています。(11面)
- 今号では、木越渉宗務総長と宮下晴輝「〇〇う学研究所長」が、『法要からの出発』をテーマに語られた対談を掲載します。(8面)

ヨコのカギ

- 『「聞」-今月の法話-』今月の筆者は、東京教区の「小林〇〇」さんです。(9面)
- 7月6日、山陽教区広島別院明信院にて「非核非戦法会兼〇〇〇く死没者追悼会」が勤修されました。(10面)
- 8月4日と7日、真宗本廟(東本願寺)にて「と〇〇式」が執り行われました。(11面)
- 「しん〇〇〇〇〇う館」ではさまざまなイベントや講演会を開催しています。詳細は浄土真宗ドットインフォでご確認ください。
- 『人間というのちの相』今月のタイトルは、「〇〇収集の現場から」です。(2・3面)
- 『読者のお便り』今月のタイトルは、「〇〇の可愛いお嫁さん」です。(11面)
- 『縁-お寺の掲示板-』今月は、四国教区通信員「河野-〇〇」さんが執筆しています。(4面)
- 1480(文明12)年「〇〇〇〇〇〇う人」は、京都山科に本願寺を再興しました。(6・7面)

答え

A	B	C	D
---	---	---	---



8月号のクロスワードパズルの答えは、
ひ
ま
わ
り

読者のこえ (7月号を
読んで)

- ◆『今月の法話』「死をみつめると生が問われる」を読んで、孫2人が今後の人生をかけたがえのないものと思って生きていってほしいと思いました。(90代女性)
- ◆『読者のお便り』同じく住職不在でお寺を維持する立場として、大変参考になりました。(70代男性)

チャレンジ! 正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1000円分」をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、下記までご応募ください。今月号の締め切りは**10月31日(火)**(当日消印有効)です。

メールでも応募できます!!

はがきと同様に必ず上記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞10月号クロスワード応募」と入力の上
higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。



応募はコチラ

【ご注意】◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報(プレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで

編集室
だより

◇8面では先月号に引き続き木越宗務総長と宮下教学研究所長の対談を掲載しています。「満堂の門徒と一緒に勤めし、堂内に響いた「正信偈」に、身が震えた」と話されたご門徒さんと同様に、私も法要では二つのお堂で同時に響く「正信偈」の力強さに感動しました。宮下所長がおっしゃっているように、この感動の正体を日々の生活の中で自分自身に問いながら、そしてまた、自分の中

けにとどめず、まわりにも伝えていきたいです。◇今月号より本紙の編集を担当させていただくことになりました。60年以上の、長い歴史のある『同朋新聞』の編集に携わることになったことを嬉しく思います。編集は初めての経験ですが、紙面づくりをとおして、私自身も真宗の教えと出遇っていきたくて思っています。よろしくお祈りいたします。(玉井)

10月1日 東本願寺出版新ホームページオープン!!

これまでの販売サイト「TOMOぶっく」と情報発信サイト「東本願寺出版HP」が1つにまとまり、よりご利用しやすくなります!



新しいHPでは...

- ・見やすい! スマートフォン・タブレットに対応!
- ・買いやすい! クレジット決済に対応。書籍の試し読みもできる!
- ・お得! お買い物で使えるポイントが付く!

【お願い】
誠に申し訳ございませんが、すでに「TOMOぶっく」で会員登録いただいている方は、新HPで、再度ご登録いただきますようお願い申し上げます。

新HPはこちら



ぜひ、ご利用ください!

東本願寺出版 検索